



SiP

SIP第3期中間評価の進め方

令和 8 年 1 月 1 3 日

防災科学技術研究所 戦略的イノベーション推進室

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 (インフラ・防災担当)

中間評価の流れについて

- ✓ R7年度(3事業年度目)では、年度毎に行う年度末評価に代わり、以下の**中間評価**が実施される。

課題
内で
実施

【ピアレビュー】(R5年度より実施)

- ピアレビュー委員会において、市場、周辺環境の変化等を踏まえた目標（KPI）および計画、技術開発の進捗状況妥当性を評価（※R7中間評価では、R7年度までの3年分を評価）

【ユーザーレビュー】(R7年度のみ実施)

- ユーザーレビュー委員会において、ユーザー視点で社会実装（提供）されるサービス、製品、基盤等の内容、時期、市場、利便性等の向上が期待できるかを評価

【ステージゲート評価】(R7年度のみ実施)

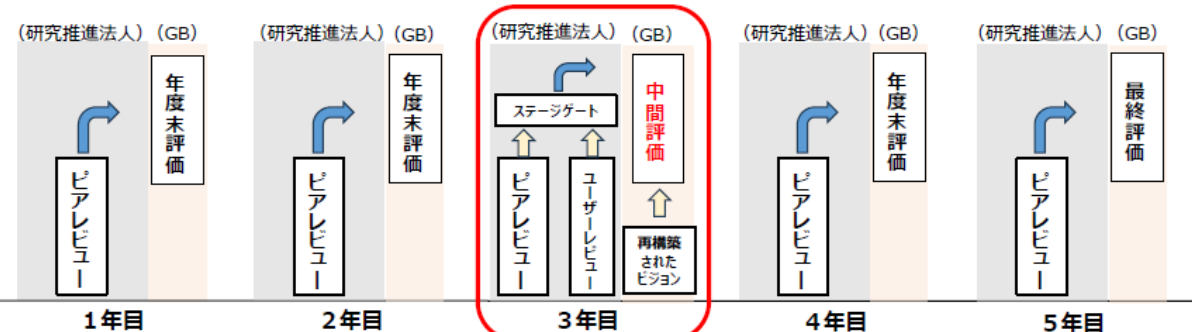
- ステージゲート委員会において、ピアレビューとユーザーレビューの結果踏まえ、継続の可否等の評価

【再構築されたビジョン】

- ステージゲート結果及び社会情勢の変化等を踏まえ、PD等は各課題の社会実装像(ビジョン)、社会実装に向けた戦略(ストラテジー)、実施内容(タクティクス)、予算計画等を再構築

【ガバニングボードによる中間評価】

- ガバニングボードにおいて、ステージゲート結果、再構築された各課題のビジョン等についての評価(ディスカッション)、コメントを付与
- 中間評価結果は、PD等の各課題の社会実装像等に反映させるとともに、「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」に落とし込みつつ、4年目以降の研究開発等を実施



ステージゲート、ピアレビュー、ユーザーレビューの流れ

令和 7 年

8月26日

ステージゲート委員会

- 各評価実施方針等について確認・意見交換
(ピアレビュー委員・ユーザーレビュー委員同席)

PD・研究開発責任者等

- 自己点検、社会実装計画を作成

10月15日
～10月22日

ピアレビュー委員会

- 課題、サブ課題、研究開発
テーマ毎にヒアリング・評価

ユーザーレビュー委員会

- 社会実装の塊毎にヒアリング・
評価

ステージゲート委員会

(ピアレビュー委員会・ユーザーレビュー委員会同時開催)

- ピアレビュー・ユーザーレビュー評価決定
- 両レビュー結果をもとに継続の可否や継続条件等を整理・決定
(プログラム統括チーム同席)

PD

- 社会実装像、研究計画、
体制・予算を再構築

11月19日

令和 8 年

1月21日

SIP評価委員会

中間評価を実施

2月～3月

ガバニングボード

2月12日：PDによる新ビジョン説明

3月19日：評価案・予算案決定

ピアレビューの観点①（R6年度と同様）

「戦略及び計画」に記載した計画の進捗と比較して①予定通りか、②進んでいるか、③遅れているか、の**自己点検結果の妥当性**について確認。（評価）

①予定通りの場合

- ・ 外部変化（国内外の市場動向、技術動向、社会情勢などベンチマークを踏まえ）との比較において、計画はそのまま良いか、目標はそのまま良いか、技術開発等のアプローチがそのまま良いか。
- ・ 計画はそのまま良いとの理由は妥当か。
- ・ 目標はそのまま良いとの理由は妥当か。
- ・ 技術開発等のアプローチがそのまま良いとの理由は妥当か。

②進んでいる場合

- ・ 外部変化（国内外の市場動向、技術動向、社会情勢などベンチマークを踏まえ）との比較において、計画・目標・技術開発等が進んでいるとの判断が妥当か。進捗状況の確認のためのベンチマーク、データ、情報、分析が妥当か。
- ・ ビジネス戦略も含めた見直しを行っているか、その際のデータ、情報、分析は妥当か。

③遅れている場合

- ・ 遅れている問題点の洗い出しはできているか、問題への対応は図られているか、対応は妥当であるか。
- ・ 遅れが解消できない場合、ビジネス戦略の変更が適切に行われているか、又は、場合によっては中止も含めた検討がされているか。

○外部変化について

- ・ 外部変化の把握の方法は十分か。その対象・ベンチマークはどのようなもので、対象とした理由が適切かつ妥当か。
- ・ 外部変化とは、技術開発から社会実装に向けての取り巻く環境として、国内外ルール、標準化の検討状況、海外政策・施策、サプライチェーン、市場そのもの、ニーズ、投資・M&A、ベンチャー、スタートアップの状況、の変化などであり、これらについてモニタリングする必要がある。

ピアレビューの観点②（R6年度と同様）

○SIP以外の予算活用によるスピナウトについて

- （BRIDGEを含む）SIP以外の研究開発予算によるSIP課題からのスピナウト（ただし、得られた成果はSIPの成果とすることも可能。）を検討する課題（課題の中のテーマの一部）については、市場・社会情勢、技術競争などの視点から当初計画よりも加速的または早期の社会実装が必要な内容であり、SIP課題との連携性が確保・担保され、SIP課題全体としても効果的な成果を生み出し、SIPの外枠としても実施可能であるなどの理由が妥当か（単にSIP内での実施では金額が足りないから等の理由ではないか）、実施計画が（SIPで実施する場合と比べて）社会実装を加速するものとなっているか、予算額が妥当か。
- SIP課題からのスピナウトについては、活用する研究開発関係予算を所管する省庁の（当該予算を利用する）合意を得た上で評価を受ける必要がある。また、BRIDGEを活用する場合、実施内容に対するBRIDGE評価委員会の対応としては、SIP課題でのピアレビューを基に、その評価内容の妥当性、BRIDGE制度実施の妥当性について評価を行う。なお、スピナウトした内容は各省施策となるため、（各省PDの設定も含め）施策実施元となる省庁の合意を得た上で評価を受ける必要がある。

○R6年度評価委員会から当課題へのコメント

- ピアレビューについて、プロセスは公平に実施されている。今後は評価が標準よりも高位となる理由についての意見の統合を総括の場においても実施していただくことを期待したい。（ピアレビュー関係箇所について抜粋）

ピアレビュー評価基準（R6年度と同様）

- 評価項目(A-4～A-9)毎に自己点検結果の妥当性を評価(S～C評価)
- 評価項目毎の評価結果を基に、総合評価を決定(S～C評価)

評価項目		評価基準	重み
A-4	個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ	5～0点での評価(3を基準に加点／減点)。 5 (S):極めて挑戦的な高度な課題目標が設定されている。 4 (A+):高度な課題目標が設定されている。 3 (A):課題目標の設定が適切である。 2 (A-):課題目標の設定が概ね適切であるが、いくつか弱点がある。 1 (B):課題目標の設定が不十分で、深刻な弱点がある。 0 (C):課題目標の設定が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。	× 2
A-5	研究開発テーマの設定目標に対する 達成度	5～0点での評価(3を基準に加点／減点)。 5 (S):設定された目標を達成し、社会実装も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。 4 (A+):設定された目標を達成し、社会実装も見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。 3 (A):設定された目標を概ね達成しており、概ね当初の予定どおりの成果が得られている。 2 (A-):目標を概ね満たしているが、いくつか弱点があり、予定を下回る成果となっている。 1 (B):目標の達成が不十分で、深刻な弱点があり、予定を大幅に下回る成果となっている。 0 (C):目標の達成が極めて不十分、もしくは情報が不足しており評価不可能である。	
A-6	社会実装に向けた取組状況		
A-7	研究成果の社会実装及び波及効果の見込み		
A-8	対外的発信・国際的発信と連携		
A-9	その他		× 1

ピアレビューの評価項目A-4～A-9への評点(1～5)に重みづけを行ったうえで合算し、合計点の得点率に応じて総合評価(S～C評価)を決定

総合評価	得点率	点数(55点満点)
S	90%以上	50点以上
A+	80%以上90%未満	44点以上50点未満
A	60%以上80%未満	33点以上44点未満
A-	40%以上60%未満	22点以上33点未満
B	20%以上40%未満	11点以上22点未満
C	20%未満	11点未満

ユーザーレビューの観点

技術開発の進捗や外部変化を踏まえつつ、「戦略及び計画」に記載した計画の進捗と照らし合わせて、①SIP終了時点、②SIP終了以降の上市、普及等の戦略、戦術、それぞれの「**社会実装計画**」の**妥当性**について確認。（評価）
複数のテーマをまとめて1つの社会実装（出口）を構成する場合、当該**社会実装（出口）に対する評価**を行う。

A項目：SIP終了時点の計画

- ・ ユーザーの特定、ユーザーに提供するモノ、価値、体制、計画が明確にされており、実現の妥当性があるか。
- ・ 国費を投入して得られる社会価値が十分（例：単独企業（単一省庁）で実施するよりも大きな（相乗）効果が期待できる、提供財の利活用（施策の実施）によりユーザーの行動変容、生産性向上等の効果が期待できる 等）であると判断できるか。
- ・ 技術以外の総合知の取り込みも検討されているか。

B項目：SIP終了以降の上市、普及等の戦略、戦術

- ・ 普及戦略・戦術のストーリーがロジカルで無理がなく、妥当性が確認できるか。
- ・ ①で記載された「SIP終了時の社会実装（普及等）までに必要な要素」を解決するための手順・措置等が示されており、その内容の妥当性が確認できるか。

ユーザーレビュー評価基準

- SIP終了時点(A項目)、SIP終了後(B項目)毎に社会実装計画の妥当性を評価(○or△)
- SIP終了時点、SIP終了後の評価結果を基に、ユーザーレビュー評価結果を決定(A～D評価)

評価項目	評価	評価基準
A項目： SIP終了時の社会 実装計画	○	ユーザが特定され、ユーザに提供するモノ、価値、体制、計画が明確になっており、実現の妥当性がある。国費を投入して得られる社会価値が十分であると判断される。技術以外の総合知の取り組みも検討されている。
	△	記載が不足しているもしくはロジックに無理があり、SIP終了時の実現について検討の余地がある。具体的には、ユーザ特定、提供財、価値のいずれかの特定がなされていない。社会実装を実現する上での体制、計画が明確になっておらず、実現には検討の余地がある。また、国費を投入して得られる社会価値が十分ではないと判断される。
B項目： SIP終了以降、上市、 普及等のための戦略、 戦術	○	普及戦略・戦術のストーリーに無理が無く、妥当性がある。
	△	記述が不足している、もしくは普及戦略・戦術のストーリーがロジカルでなく、無理がある。



A項目、B項目の評価の組合せにより
総合評価(A～D評価)を決定

総合評価	評価基準	
	A項目： SIP終了時の社会実装 計画	B項目： SIP終了以降、上市、普 及等のための戦略、戦術
A	○	○
B	○	△
C	△	○
D	△	△

社会実装（出口）例（災害実動機関等を出口とするパイプラインC）

災害実動機関（自衛隊・警察・消防等）、災害対策本部

- 訓練効率化による災害対応力の向上
- 通信途絶下における機関間の情報共有体制の構築
- 音声認識・画像重畳等による現場の災害対応効率化

・開発システム*の災害実動機関の正式な災害対応機器として採用・運用

(C) 災害実動機関における組織横断の情報共有・活用

- 実動機関が災害現場でリアルタイムに情報共有し、より迅速な対応・支援を実現

被害状況常時推計データ等

津波浸水被害予測情報等

(A) 災害情報の広域かつ瞬時把握・共有

- 被害情報を広域に可視化・共有することで、災害の瞬時把握を実現

(E-1) 防災デジタルツインの構築

- 多様なデータを活用した防災デジタルツインを構築し、リアルタイムに災害を予測

* 仮想災害対応シミュレーター(DSG-SIM)、機関横断情報通信システム(X-ICS)、SIP4D-Xedge、X-FACE等

ピアレビュー・ユーザーレビューの相違点

	ピアレビュー	ユーザーレビュー	
評価者	ピアレビュー委員会	ユーザーレビュー委員会	
評価単位	課題、サブ課題、研究開発テーマ単位	社会実装(出口)単位	
評価項目 (下線部は社会実装に関する項目)	【課題目標の達成度と社会実装】 <u>A-4(個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ)</u> <u>A-5(研究開発テーマの設定目標に対する達成度)</u> <u>A-6(社会実装に向けた取組状況)</u> <u>A-7(研究成果の社会実装及び波及効果の見込み)</u> <u>A-8(対外的発信・国際的発信と連携)</u> <u>A-9(その他)</u>	【SIP終了時の社会実装計画】 <u>A-1(社会実装する者)</u> <u>A-2(提供財)</u> <u>A-3(想定ユーザー)</u> <u>A-4(ユーザーに提供する利便性・価値)</u> <u>A-5(実施体制)</u> <u>A-6(実施計画)</u> <u>A-7(SIP終了時の社会実装(普及等)までに必要な要素)</u>	【SIP終了以降、上市、普及等のための戦略、戦術】 <u>B-1(事業実施者)</u> <u>B-2(事業者間の関係)</u> <u>B-3(提供財)</u> <u>B-4(想定ユーザーセグメント・市場)</u> <u>B-5(ユーザーセグメント/市場に提供する利便性・価値)</u> <u>B-6(ビジネスプラン・事業継続のモチベーション)</u> <u>B-7(事業体制)</u> <u>B-8(事業計画(リターンとコスト、運営費用))</u> <u>B-9(Open/Close戦略)</u> <u>B-10(事業拡大戦略)</u> <u>B-11(差異化ポイント)</u> <u>B-12(実施計画)</u>

ステージゲート委員会の役割

- ピアレビュー及びユーザーレビューの評価結果から、令和7年度にSIPで実施している全てのサブ課題（テーマ）について、**令和8年度以降のSIPでの継続可否**を確認。（評価）
- ユーザーレビューにおいて評価を行った社会実装（出口）ごとに**ピアレビュー及びユーザーレビューの評価結果を下記の表に当てはめて継続可否を確認、個別のコメントを付す**（原則、社会実装（出口）の中の特定テーマだけ継続を認めるということは行わない）。
- なお、**ユーザーレビュー評価が「D」である社会実装（出口）に係るテーマについては、ピアレビューの評価結果に関わらずSIP及びBRIDGEでの継続実施（BRIDGEにおける新規としての提案含む。）は（PDの裁量による実施を除き）認めない**（ピアレビュー評価A－以下の場合のキャッチアッププラン提出も不要）。

		ピアレビューの評価					
		S	A+	A	A－	B	C
ユーザー レビュー の評価	A	継続 （SIPでの継続、若しくはスピンアウトによる加速）			当該テーマ全ての実施に係る キャッチアッププラン （様式適宜）を提出させ、妥当性確認をしたうえで継続可否の評価		
	B	社会実装計画に対する条件を付して継続を認める			キャッチアッププランの妥当性確認による継続可否の評価をしたうえで、社会実装計画に対する条件を付して継続を認める		
	C						
	D	SIP（BRIDGE）としての継続は認めない					

(参考) 評価基準

- ピアレビューにおける評価項目
- ユーザーレビューにおける評価項目

(参考) ピアレビューにおける評価項目① (R6年度と同様予定)

項目	評価内容
A-1 意義の重要性、SIP制度との整合性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題全体を俯瞰的にとらえ、Society5.0の実現に向けて将来像を描いているか。 ・技術開発のみならずルール整備やシステム構築などに必要な戦略が検討され、SIP制度との整合性が図れているか。 ・SIP第3期課題として必要な「要件」(S I P 運用指針別紙)を満たしているか。
A-2 ミッションの明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像の実現に向けたミッションが明確となっているか。 ・関係省庁を巻き込んだ協力体制の下に、課題の解決方法が特定され、ミッション遂行が実現可能なものであるか。
A-3 目標設定・全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションを達成するために、現状と課題を調査し、ロジックツリー等を活用し、社会実装に向けて、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む5つの視点で、必要な取組を抽出されているか。 ・抽出した取組について、既存の産学官での取組を把握した上で、SIPの要件及び本評価基準を踏まえ、SIPの研究開発テーマを特定しているか。 ・SIP終了時の達成目標が設定されており、実現可能なものであるか(なお、SIP期間中において目標は常に見直し、アジャイルな修正も可とする。) ・SIPの研究開発テーマを含む必要な取組について、社会実装に向けたロードマップを作成し、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む5つの視点で、戦略的かつ明確になっているか。また、これら5つの視点の成熟度レベルを活用しながら、指標が計測量として用いられ、進捗度が可視化されているか。 ・データプラットフォームの標準化戦略を見据え、全体のデータアーキテクチャーを見据えたデータ戦略は設定されているか。 ・スタートアップに関する戦略は設定されているか。
A-4 個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の研究開発テーマの設定は国際競争力調査や、市場・ニーズ調査、有識者や関係者へのヒアリングなど、エビデンスベースでの理由で裏打ちされているか。また、これらは最新の情報に更新され、必要に応じて目標の変更がなされているか。 ・個別の研究開発テーマの目標及び工程表は明確であり、実現可能なものであるか。 【重点要素】5つの視点の成熟度レベルを活用し、必要な取組の抽出と進捗度の可視化を行うことは必須とする。 ・個別の研究開発テーマの目標は課題全体の目標(A-3)を満足しているか。

(参考) ピアレビューにおける評価項目② (R6年度と同様予定)

項目	評価内容
A-5 研究開発テーマの設定目標に対する達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の研究開発テーマについて、当該年度の設定目標に対する達成度（進捗状況）は計画通りか（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む）。達成度の進み具合が、設定目標が甘いことによるものではないか。遅れている場合、リカバリー方法が遅れを取り戻すことに十分可能なものか。 【重点要素】達成度(進捗状況)が把握できるように数値化された情報が含まれていることを必須とする。 ・得られた成果の新規の学術的・技術的価値はあるか。 ・得られた成果は課題全体の目標に対してどの程度貢献しているか。
A-6 社会実装に向けた取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・知財戦略や国際標準戦略などを含む事業戦略、規制改革等の制度面の戦略、社会的受容性の向上や人材の戦略は設定され、その取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。） ・データ戦略の取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含めて妥当かどうか） ・スタートアップに関する戦略の取組状況は計画通りか。（計画変更となった場合、当該進捗状況に至る理由を含む。）
A-7 研究成果の社会実装及び波及効果の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果によって見込まれる効果あるいは波及効果が明確であるか。（科学技術の進展、新製品・新サービス等への展開、市場への浸透や社会的受容性への影響、政策への貢献、人材育成への貢献など。定量的表現が望ましい。） 【重点要素】「見込まれる効果あるいは波及効果」に対して、潜在的な障壁が特定され、研究開発でクリアできることが具体的な根拠とともに説明されていることを必須とする。 ・(A-5)(A-6)を踏まえて、技術、事業、制度、社会的受容性、人材の5つの視点からロジックツリー等を用いて研究成果の社会実装への道筋が明確に示されているか。 ・開発する技術の優劣に関する国際比較、当該技術の強み・弱み分析、国際技術動向の中での位置づけなど、グローバルベンチマークの結果が示されているか。

(参考) ピアレビューにおける評価項目③ (R6年度と同様予定)

項目		評価内容
A-8	対外的発信・国際的発信と連携	<ul style="list-style-type: none">・課題の意義や成果に関して効果的な対外的発信の計画が検討され、実施されているか。計画的な発信・連携（決めただけのことをやった）だけでなく、効果的なものとなっているか。・国際的な情報発信や連携の取組の進捗はあるか。
A-9	その他	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度の研究開発テーマの計画が課題全体の計画達成に過不足なく妥当な内容か・来期要望予算が、上記計画の実施にあたり、適切な費目や金額となっているか（特に、不明瞭な積算根拠になっていないか、過剰な積算になっていないか）

(参考) ピアレビューにおける評価項目④ (R6年度と同様予定)

A.課題目標の達成度と社会実装		ピアレビュー委員会	SIP評価委員会
A-1	意義の重要性、SIP制度との整合性	—	○
A-2	ミッションの明確化	—	○
A-3	目標設定・全体ロードマップ、その他の社会実装に向けた戦略の妥当性	—	○
A-4	個別の研究開発テーマの設定及びその目標と裏付けの明確さ	○	○
A-5	研究開発テーマの設定目標に対する達成度	○	○
A-6	社会実装に向けた取組状況	○	○
A-7	研究成果の社会実装及び波及効果の見込み	○	○
A-8	対外的発信・国際的発信と連携	○	○
A-9	その他	○	○
B.課題マネジメント・協力連携体制			
B-1	課題目標を達成するための実施体制	—	○
B-2	府省連携	—	○
B-3	産学官連携、スタートアップ	—	○
B-4	課題内テーマ間連携	—	○
B-5	SIP課題間連携	—	○
B-6	データ連携	—	○
B-7	業務の効率的な運用	—	○
B-8	その他	—	○

(参考) ユーザーレビューにおける評価項目① (SIP終了時点)

A 項目：SIP終了時の社会実装計画

評価項目		評価内容
A-1	社会実装する者	・SIP期間内の社会実装をコミットする者の名称。なお、複数の団体、企業があっても良い。
A-2	提供財	・SIP期間中に技術開発による提供財（サービス、ルール/規制、ガイドラインなどを含む）
A-3	想定ユーザー	・本PoC、社会実装成果を享受する者
A-4	ユーザーに提供する 利便性・価値	・想定ユーザが享受する利便性、効果
A-5	実施体制	・社会実装にかかわる実施者（技術開発、試作、PoC、ルール/規制検討など）とその連携性、関係性
A-6	実施計画	・技術開発およびPoC、ルール/規制検討を行う計画およびマイルストーン。 ・複数の関係者が存在する場合には、その調整計画なども含む
A-7	SIP終了時の社会 実装（普及等）ま でに必要な要素	・SIP以外の取組を含み、技術開発以外に社会実装（普及等）に必要な要素（例えば規制（緩和）、支援策など）を記載。 ・これらを実施する者（現状での連携性など）、状況等を記載。 ・事業、制度、社会受容性、人材レベル向上（XRL）のための具体的な取組、総合知の利用の取組を記載。

・SIP終了後に想定する社会像、普及等を踏まえ、想定する社会実装する者、提供財、想定するユーザーは、適正であるか。また、社会実装が可能な者であるか。
・公共利用の場合でも、想定するユーザが適正であるか、社会課題解決に対する効果の大きさを評価。

・SIP終了時点で、全体として社会実装が可能な体制が検討され、連携等が取れているか。また、計画は適切であるか。

・SIP以外の取組が意識され、進捗状況等の把握がされ、連携等が取れているか。

(参考) ユーザーレビューにおける評価項目② (SIP終了後)

B項目：SIP終了以降、上市、普及等のための戦略、戦術

評価項目		記載内容	評価内容
B-1	事業実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・SIP終了後、事業を行う実施者。複数あっても良い。 ・公共・公益利用の場合は維持・管理者、政策、ルールへの活用の場合は、策定・管理者を指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SIP終了後に想定する社会像、普及等を踏まえ、1. 社会実装者からSIP終了以降の上市等の展開が仮説として検討されているか。 ・想定する社会実装する者、提供財、想定するユーザー・セグメント、提供財の利便性・価値等が適正であるか。また、社会実装が可能な者であるか
B-2	事業者間の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施者が複数ある場合の関係性。 ・現時点での調整が進んでいない場合、事業を有効にするため想定する関係者を記載。 	
B-3	提供財	<ul style="list-style-type: none"> ・SIP終了時から変化する場合は特に記載。製品→サービスなど。 	
B-4	想定ユーザーセグメント・市場	<ul style="list-style-type: none"> ・単独のユーザではなく、SIP終了時より広い集団への提供計画について記載 	
B-5	ユーザーセグメント/市場に提供する利便性・価値	<ul style="list-style-type: none"> ・上記ユーザセグメント、市場に与える利便性、価値、効果 	
B-6	ビジネスプラン・事業継続のモチベーション	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業の場合、どうやってリターンを得るか。モノを売る、サービス提供など。複数の事業者がある場合はそれぞれの事業者のビジネスプラン、サプライチェーンの関係性を記載。(秘密事項である場合の扱い) ・公共・公益利用、政策、ルールへの活用の場合は維持・管理者が運営を継続できるメリットを記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体性をもって検討がされているか。無理のない構想となっているか。 ※ B-6からB-12までは、BRIDGE等の制度を活用して加速的な実施等を目指す場合には、必須で記載のこと。仮説・計画段階のもので可能。
B-7	事業体制	<ul style="list-style-type: none"> ・上記を得るための体制。複数の事業者がある場合はそれぞれの事業者の事業体制、サプライチェーンの関係性を記載。(秘密事項である場合の扱い) 	
B-8	事業計画(リターンとコスト、運営費用)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施するための投資(コスト)と収益(リターン)の年次計画。複数の事業者がある場合はそれぞれの事業者の事業体制を記載。(秘密事項である場合の扱い)。 ・公共・公益利用、政策、ルールへの活用の場合は維持・管理者の運営費用の在り方を記載。 	

(参考) ユーザーレビューにおける評価項目③ (SIP終了後)

B項目：SIP終了以降、上市、普及等のための戦略、戦術

評価項目		ユーザーレビュー記載内容	評価内容
B-9	Open/Close戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を成長・拡大するために、事業者内でCloseにする競争領域と、各社で共創するOpen領域の選別。また、Open/Close戦略を実施するための標準化、知財、広報パートナー戦略の考え方と計画。環境変化などリスクに対する対処の考え方。 ・公共・公益利用、政策、ルールへの活用の場合はOpenしかないので、記載不要。ただし、標準化への活用の場合、標準化のための戦略を記載のこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体性をもって検討がされているか。無理のない構想となっているか。 ※ B-6からB-12までは、BRIDGE等の制度を活用して加速的な実施等を目指す場合には、必須で記載のこと。仮説・計画段階のもので可能。
B-10	事業拡大戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・SIPで行うPoC→1st顧客向け事業→アーリーアダプターへの展開→マスへの展開（ユーザ拡大）に至る展開方針と計画。ビジネス（公共事業を含む）としてコストバランスするための方策、コストデメリットとユーザメリットがアンバランスの場合は普及施策も記載。PoCを繰り返すだけでなく、横展開、事業拡大になるような戦略を記載。 ・公共・公益利用、政策、ルールへの活用の場合は、公開後の効果をより大きくするための戦略を記載。 ・社会受容性向上のための具体的な方策を記載。 	
B-11	差異化ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・技術、コスト競争力など、既存事業、競合事業者から本事業が選ばれる理由。 	
B-12	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・B-9からB-11の戦略を実行する計画。達成時期とマイルストーンを記述。 	

（補足）B評価項目名は、社会実装（出口）の形として民間が関与するものを想定したものである。純粋な公共関与となる社会実装の形の場合は、適宜読み替えて計画を作成すること。